



志高く  
心豊かに  
自らを鍛える生徒

# 入間野愛

令和5年度 12月号

狭山市立入間野中学校

生徒数 489名

TEL 04-2959-9311

## 対立を乗り越えるのは対話

2学期も残すところあとわずかとなりました。今学期も保護者、地域の皆様方にお力添えいただきましたことに改めて感謝申し上げます。

今学期は、体育祭をはじめ、新人体育大会、校内音楽会など、たくさんの学校行事や体験活動を実施することができました。その取組のプロセスで生徒たちが考え、学年・学級で話し合って自分たちで決定し、決めたことをみんなで実行する。そして取組の成果についてみんなで振り返り、次の新たな取組や生活に生かしていく。

こうした、「体験」を反省的思考によって「経験」にまで高めていくのが学校行事の大きな意義です。

まさに「為すことによって学ぶ」、たくさんの機会を持つことができました。

また、自分の考えをいかに相手に伝えるか、そして対立や意見の相違があったときに、他人とどう折り合いをつけながら合意に至るかといったプロセスや人間関係の調整力も、こうした行事への取組を通じて生徒たちは身に付けていきます。

ところで、集団で活動していく中では、どこかで必ずと言ってよいほど、対立や意見の相違が生じるものです。そうした対立を乗り越えていくことに関して、次のようなコラムを目にしました。

「対立が生じたとき、自分と周囲を分けて考えてしまっていることがそもそもの問題ではないでしょうか。人間は共同相互存在です。つまり、集団で一緒に物事に取り組んでいるのなら、それは自分と周囲の仲間が別々の存在としてやっているのではなく、一体となった共同相互存在がやっていると考えられます。

そうであるならば、自分と周囲とは対立する関係ではなくなります。考え方や意見が違う場合も自分が相手のどちらかが変わるべきかではなく、一つの存在の中に生じた矛盾みたいなものなので、みんなで解決していけばよいのです。そして、**その解決には対話しかありません。**

幸い、私たち人間には対話する能力があります。

それは、**一方的な「正しさ」を押し付けることではありません。**対話とは、どうすれば前に進んでいくことができるか、**お互いの様々な思いを汲みながら耳を傾け合うこと**です。」

今学期、生徒たちは学年や学級などの集団の中で対立が生じたときに、対話を通して解決を図ることができたとしたなら、あるいは、対話によって解決を図ろうと努力することができたのなら、それは今後の人生や社会生活を送るうえで大変貴重な経験を積んだと言えるのではないのでしょうか。

これからも、こうした取組によって生徒たちが経験を積み重ね、人への優しさ、気遣いや、みんなで課題を解決していこうとする意欲、逞しさなどを生徒たちに育ててまいりたいと思います。

## いるま路祭、復活への“第一歩”に感謝

11月11日（土）「さやまっ子教育の日」、いるま路祭が4年ぶりに行われました。久しぶりの開催で、とくにPTAのいるま路祭実行委員会の方々には大変なご苦労をおかけしたと思います。今回復活への“第一歩”を踏み出していただいたことに感謝の気持ちでいっぱいです。生徒たちにつかの間ではありましたが、非日常的なリフレッシュの機会を創っていただき、本当にありがとうございました。

また、なないろ学級の生徒たちにとって、バザーでの作品販売の体験は生きた勉強の機会となりました。役員の方々からは「生徒の笑顔が見られてよかった」「実際に活動してみると楽しかった」等のお声をいただき大変ありがたく存じます。

課題や反省点につきましては来年度の改善につなげてまいります。実行委員会をはじめPTA本部や各種委員会、おやじの会の皆様方のご協力に感謝いたします。模擬店での商品の購入にご協力いただきました生徒・保護者の皆様にも御礼申し上げます。



# 入間野中生の活躍です

## 入曽第七区自治会 秋祭りで演奏

10月28日(土)、入曽の七区広場で開催された自治会の秋祭りに、吹奏楽部が参加しました。保護者の方をはじめ、集まった多くのギャラリーの皆様方の前で心のこもった演奏を披露しました。

生徒たちも地域住民の一員。こうした機会をいただきながら、地域への貢献を広げていけたらと思います。



## 新人体育大会県大会での奮闘ぶりです

11月には各競技で新人戦の県大会が行われ、本校の生徒たちが各市町村の代表と対戦しました。



また、剣道部は県大会に先立って行われた第60回狭山剣道大会で、中学男子の部、中学女子の部、それぞれで準優勝に輝きました。

## 受賞、おめでとうございます！

★人権に関する標語募集において、1年生の  さんが入選しました。狭山市の中学生としては唯一人の受賞とのこと。おめでとうございます。

入選作品「差別ない 優しさの輪を 広げよう」

★「第34回伊藤園お〜いお茶新俳句大賞」において、2年の  さんの作品が佳作に選ばれました。誰もが共感でき、どこか心を和ませる一句です。

入選作品「テスト前 脳と鉛筆 運動会」

		部活動	
日	12月	朝	放
11	月	○	×
12	火	○	×
13	水	○	○
14	木	○	×
15	金	○	×
16	土	○	○
17	日	○	○
18	月	○	×
19	火	○	○
20	水	○	×
21	木	○	○
22	金	×	×
23	土	○	○
24	日	○	○
25	月	○	○
26	火	○	○
27	水	○	○
28	木	○	○
29	金	×	×
30	土	×	×
31	日	×	×
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">                     冬休み中も校舎は改修工事をします。教室には入れません。                 </div>	
日	1月		
1	月	×	×
2	火	×	×
3	水	×	×
4	木	○	○
5	金	○	○
6	土	○	○
7	日	○	○
8	月	○	○
9	火	×	×